

事業名 ^{はんだ}半田運河再生計画
(^{きぬらこう}衣浦港海岸)

〔黒蔵の散歩道「運河に映える古い醸造蔵群」〕

受賞機関 愛知県衣浦港務所
事業実施期間 平成3年7月～平成13年3月
事業費 1,605百万円

事業等の特徴

半田運河は、護岸の補強と汚泥の浚渫を実施すべく「衣浦港半田運河整備計画」を地域住民の意見を取り入れ策定し事業実施を図った。整備後は、半田市民によるアダプトプログラム（公共施設の里親制度）により市民参加による清掃活動や、水質・底質の改善効果による水生生物・鳥類の再生、地元に対して祭りの場の提供など多くの効果をもたらしている。また、汚泥浚渫により悪臭が取り除かれたことにより、「酢のかおり」が蘇り、景観と相まって平成13年10月に環境省の「かおり風景百選」に選ばれている。事業の概要と利用者等の評価

永い歴史を持つ半田運河は護岸の老朽化が進み、生活排水等の流入によって汚泥が堆積し、悪臭を放ち住民を遠ざけていた。このような背景を考慮し、護岸の補強と汚泥の浚渫を基本として計画を進め、人々から親しまれる水辺の再現をめざし、地域代表者とともに「衣浦港半田運河整備計画」を策定した。

黒板塀の醸造蔵は、半田市の発展の歴史を語るうえで欠かせない。その景観を損なわないよう護岸は自然石による石積とし、白色系の花崗岩で黒蔵とのコントラスト的な調和を図った。汚泥の浚渫後、人々ができるだけ水面に近づけるように護岸を3m前出しし、天然石による石張りの遊歩道を設け、高欄や照明灯も調和のとれたものとした。また、本運河を横断している道路整備事業の橋梁改築工事において、景観や施工時期を調整し、散策路としての機能を活かすために、橋梁下に歩道を設置し連続性を持たせた。

浚渫施工時においては、本運河が市の中心部に位置することから土運船積込時に悪臭が漂わないよう、排砂管を運河の外まで延長し積込を行った。

○計画、設計及び施工のプロセスに対する評価

計画段階より地元住民と検討会を開き、その意見を実施に反映できたことは、地元関係者に評価されている。

○事業完了後、施設等に対する評価

・半田市にアダプトプログラム（公共施設の里親制度）があり、およそ300名のボランティアにより清掃活動が行われており、施設を自分達の財産とする気運が高まっている。

・遊歩道の設置により黒蔵と運河が調

和した散歩できる空間が確保されたことで、歩行者道路のネットワークの中心となっている。

・運河に隣接する博物館「酢の里」や「酒の文化館」には貴重な資料があり、年間5万人以上が見学に訪れており、散策により歴史、文化を実体験できる。

・悪臭がなくなりその後の水質及び底質のモニタリング調査によって環境の改善が確認されている。生態系の面でもセイゴなどの魚群や、カワウ、アオサギなどの水鳥も見られ、自然観察の場となっている。

・半田市の祭典である「はんだ山車まつり」は5年に一度開催される。当地区は山車の巡行経路にもなっている（前回平成9年の開催時には延べ45万人の観客が訪れた）。

○評価の把握手法の具体的内容

- ・市のホームページへの市民からの投稿
- ・「かおり風景百選」に入選
- ・絵画・写真コンテスト
- ・新聞などによる報道

審査委員会委員の意見等

- ・醸造蔵の黒と自然石を用いた護岸のコントラストが美しい点が評価できる。
- ・運河の再生計画を中心に、アダプトプログラムや街づくり構想なども視野に入れた大きな全体構想力が高く評価できる。評価についてもHP、写真コンテストへの応募など工夫を凝らしていて、先進事例として参考になる部分が大きいと考える。
- ・伝統的歴史的な物語の背景を大事にしている半田であるからこそ、質の高い取り組みが社会的意義を発揮すると考えられる。
- ・周辺景観との調和に配慮、施設管理におけるアダプトプログラムの導入も評価できる。

受賞賛助会員 ㈱小島組

